

平成30年度社会福祉法人神和会事業計画

1. 事業の概要

職員の慢性的な不足を解消するために平成28年度に積極的な処遇改善を実施し、職員の定着について一定の改善を得たものの、介護報酬の引き下げと利用者負担増の影響から稼働は伸び悩み、財務状況の悪化を招いた。

経営の安定化を図るため債務の圧縮を図ることと併せ、利用者の利便性向上の観点から居宅介護支援事業所の開設を予定している。また、中長期を見据えた経営体質の改善のための検討を開始する。

2. 具体的な事業

(1) 地域福祉活動

介護保険サービスに加え、介護保険事業外の事業として障がい者福祉サービスを提供する。また、低額で利用できるサービスとして大野の郷・和の家とも公費による負担減免制度の適用施設となっている。社会福祉法人としてこれらの事業を継続し、地域に貢献する。

(2) 経営の安定化

地域に密着した活動を展開するために居宅介護支援事業を新たに併設する。大野地区はその地域特性からみて家族の介護力に頼ることの難しい高齢者世帯が多数存在するため、地域との繋がりを意図しながら展開する事業としたい。また、後発の立ち上げとなるため、例えば処遇困難事例を積極的に受け入れるような独自の活動も検討したい。

3. 理事会等の日程

平成30年度の理事会等を定款第12条及び19条により次の通り計画する。

開催月	議題等	備考
6月理事会	1号報告平成29年度事業報告及び決算報告	監事からの監査報告
6月評議員会	1号報告平成29年度事業報告及び決算報告 理事及び監事の選任	監事からの監査報告
11月理事会	1号議案平成30年度補正予算 2号報告大野の郷・和の家運営中間報告	監事からの監査報告
11月評議員会	1号議案平成30年度補正予算	
3月理事会	1号議案平成30年度補正予算 2号議案平成31年度事業計画及び予算	監事同席
3月評議員会	1号議案平成30年度補正予算 2号議案平成31年度事業計画及び予算	監事同席

その他に理事長が必要とした時、あるいは、定款第13条第2項の規定に基づき開催請求があった時には臨時会を開催する。

平成30年度特別養護老人ホーム大野の郷(短期入所事業含む)地域密着型特別養護老人ホーム和の家事業計画

1. 事業の概要

施設理念について、職員に対しキーワード(言葉)としての浸透は出来たと実感する。今後は施設理念を具現化していく為に、それぞれが理念をカタチにする取り組みをしていかなければならない。入居者・利用者にとって“やすらぎ”“癒し”を感じられる事は何か?ユニット単位、職員単位で考え、行動できるようにしていきたい。その為の基礎作りとして、今年度は福祉用具の導入・活用、安心・安全な生活の為の体制作り、ユニットケアの充実に重点を置き展開していく。

職員においても、“働きやすい職場環境の整備”と“職場のプロとしての成長”福祉用具の活用、研修、人事考課、多職種協働を通して展開していく。

また今年度も引き続き広報活動にも力を入れていきたい。

2. 事業展開へ向けた考え方

(1) 入居者・利用者の生活を支える

①福祉用具の導入・活用

これまで介護は「介護は人の手で」と、リフトによる移動介助などは、どこか敬遠されていた。しかし、これまでの“持ち上げて”の介護方法では、入居者と職員双方への負担があり、職員の腰痛・入居者の拘縮悪化などの問題が生じていた。

前年度、スライディングシート、スライディングボード、リフトの使用方法などを施設内研修で実施したが、福祉用具に対して、まだ不安な点や「手間がかかる」、「従来のやり方の方が手取り早い」などの考えが先行したり、福祉用具の整備が進まなかった事もあり、なかなか浸透できなかった。職員の腰痛予防対策、入居者の負担軽減の観点から、福祉用具を必要分確保し、活用していかなければならない。福祉用具の活用に向け、再度リフトリーダー研修への派遣、施設内での実技講習などを実施し、徐々に導入・活用するようになる。

また福祉用具の活用と同時進行で、スーパートランスファーなど、“持ち上げない”介護、入居者(利用者)にとって負担が少なく安全な移乗方法を身につけ実践する。

②入居者の安心安全な生活の保障

理念である「やすらぎ」「癒し」を達成する為には、日常の生活において「安心・安全」を保障しなければならない。入居者は様々な疾患があり、また日や時間によって状態が変

化する。入居者個々を知り、状態把握に努める事で、その時々に合わせてケアを行い、事故等を未然に防げるよう整備していく。具体的な取組みとして、

給食委員会で、誤嚥・窒息予防への取組みを強化していく。誤嚥リスクを判断するチェック表を作成し定期的に確認し、対応等を検討していく。

褥瘡委員会では、拘縮、褥瘡予防の取組みとして、引き続き、定期的にOHスケール評価と、筋緊張や拘縮、褥瘡予防の正しいポジショニング、シーティングを推進していく。

リスク委員会では、リスクマネジメント体制の再整備として、事故防止活動を行っていく。介護は「人が生活する事を支援する」仕事であり、この性格上100%事故を防ぐ事は困難である。しかし、設備・用具や介護動作・手順を改善することによって防げる事故がある。「防ぐべき事故」と「防げない事故」を整理して、防げる事故に対して、環境整備、マニュアルの見直し、介護内容の改善をしていく。

③ユニットケアの充実

ユニットケアを進めて行く上で重要となるのが、その人の生活や想いを一覧化した「24Hシート」である。前年度は、入居者をチームで支えるべく24Hシートを多職種協働で見直しを行った。本来の予定であれば、ケアプランを連動させるまで実施したかったが、下方修正した経緯があり、今年度新たに、24Hシートとケアプランの連動を実現させた。

また、ユニットケアをさらに充実したカタチあるモノにする為に、食事、排泄、余暇活動、就寝時、起床時等ケース毎に、「どのように取り組んでいくのか」リーダー会議で話し合い、リーダーを中心に実践していく。

(2) 職員のプロ意識を育てる

①研修

前年度は、基礎的な研修を中心に実施してきた。今年度はそれをベースとし、発展させていきたいと考え、外部講師のご協力を頂き、より専門性を深めた研修内容にしていく。その他、入居者の急変や緊急時に適切に対応できるよう、引き続き緊急時対応研修、リスクマネジメント研修を定期的実施する。

外部研修への派遣においては、例年通り、ユニットケア、認知症ケアを中心に実施する。また今年度は、リフト、福祉用具の研修や最新介護技術の研修へ参加し、入居者・職員にとって負担の少ない介護技術を浸透させていきたい。

②人事考課

昨年度に引き続き、人事考課を継続して実施する。昨年度は始めての実施であり、考課項目を判断しやすい基礎的な項目に重点をおいて考課した。今年度は若干の修正をし、より成果が反映できる内容で考課し、職員のモチベーションアップや自己課題の発見から目

標の明確化へ繋げていきたい。

④チーム力の向上（チームケア）

入居者を支える事や施設を発展させる為には、個の力では限界がある。チームとして個々の役割に責任を持ちケアをすること。多職種の業務を理解し、お互いプロとして尊重しながら連携を深める事が必要である。今年度は、それぞれの部署、委員会がその機能を果たし、切れ目のない介護、全方位から支える介護の体制を構築したい。

（３）地域交流と地域への広報活動

①SNSの活用

引き続き、ホームページ、フェイスブックの定期更新を行い、施設の情報を発信していく。広報誌『どんぐり通信』も同様に定期更新する。

これまで内容がホームページ、フェイスブック共に施設の活動内容をメインにしてきた。しかし、今年度からはフェイスブックはこれまで通り、活動内容を写真と共に掲載するが、ホームページは、福祉施設としての情報発信として、比較的コラムであったり、介護業界の情報等を織り交ぜながら掲載するといった様に分類していきたいと考えている。

②地域行事への参加、施設行事の開放

例年通り、鹿嶋市内の行事へ積極的に参加する。また、ユニット単位でも、地域への関わりを持てるよう外食や買い物など実施していく。特に鹿島まつりでは、施設のブースを出店できる為、PRをしていきたい。施設行事では、地域の団体の協力を頂き、入居者の楽しみと地域との触れ合いを実施していく。“月見祭”では地域の方々も招待し大規模な祭りを展開し、入居者と地域の方の触れ合いの場とする。

平成30年度 年間行事			・研修等は別紙参照				
	事務局	法人全体行事	大野の郷		和の家		備 考
			特養・ショート部門	デイ部門	地域密着型特養部門	小規模多機能部門	
4月			・花見	・花見	・花見	・花見	※各月の誕生日イベントや外出等は各部門ごとに計画して行う
5月	・理事会・評議会 ・職員健康診断（介護職）					・遠足	
6月		・法人開所記念（バイキング） ・前期全体会	・あやめ見学	・あやめ見学	・あやめ見学	・あやめ見学	
7月		・青空喫茶（飯）		・外食	・夕涼み会	・夕涼み会	
8月		・月見祭		・夏祭り			
9月		・敬老会		・敬老会			
10月		・鹿嶋まつり参加		・外出レク	・ハロウィンスイーツバイキング	・ハロウィンスイーツバイキング	
11月	・理事会・評議会 ・職員健康診断				・菊見学	・菊見学	
12月	・職員忘年会	・もちつき	・クリスマス会	・クリスマス会 ・忘年会	・クリスマス会	・クリスマス会	
1月							
2月		・節分 ・バレンタイン		・節分 ・バレンタイン	・節分	・節分	
3月	理事会・評議会	・祭頭祭見学 ・後期全体会		・ひな祭り	・居酒屋	・居酒屋	

平成30年度 施設内研修計画表				
実施月	テーマ	内容	主催・講師	日程
4月	新年度事業計画と施設理念	事業計画・理念を共有し、全職員が同じ目標に向かっていくようにする。	施設長	
	医療分野研修(医療用具)	施設で使用している医療用具についての知識を深める。	看護師	
5月	食中毒対策研修	食中毒の基礎知識と予防法を学び、入居者の食の安全に役立てる。	外部講師	
	排泄ケア研修	オムツゼロの考え、取り組み方法を学ぶ。	白十字様	
6月	脱水症対策研修	脱水症状を理解し、水分摂取の重要性を知る。	外部講師	
	全体会(窒息対応)	誤嚥・窒息発生時の対応を通して、緊急時対応を学び、スキルを磨く。	外部講師	
7月	褥瘡対策研修(体位交換)	褥瘡の知識を深め、正しい体位交換、ポジショニングを学ぶ。	褥瘡委員会	
	口腔ケア研修	口腔ケアの重要性を学び、正しい口腔ケア方法を知る。	外部講師	
8月				
	人権擁護研修	福祉では人権擁護は極めて重要である。基本知識を学び、業務に役立てる	施設長	
9月	医療分野研修(高齢者の疾病)	高齢者に多い疾病とその観察ポイント、対応法を学ぶ。	看護師	
	シーティング研修	車椅子、ベッドなどでの正しい姿勢、ポジショニング方法を学ぶ。	外部講師	
10月	感染症対策研修	ノロウイルス、インフルエンザについて学ぶ。また、適切な対応方法を学ぶ。	感染委員会	
	KYT(危険予知トレーニング)研修。	事故を未然に防ぐ為、洞察力、観察力を養う。	介護主任	
11月	ターミナル研修	終末期ケアの考えを学ぶ。施設での看取りへの取り組みを考える。	たんぽぽ委員会	
	ユニットケアについて	ユニットケアの考え、手法を学ぶ。	介護主任	
12月	身体拘束防止研修	身体拘束ゼロに向けた基本的考え、実際にどのように取り組むべきか考える。	介護主任	
	介護技術講習(Ⅰ)	最新の介護技術を学び、入居者・職員にとって負担の少ないケアを目指す。	外部講師	
1月	介護保険制度研修	介護保険の基礎知識(制度など)を学ぶ。	外部講師	
	介護技術講習(Ⅱ)	最新の介護技術を学び、入居者・職員にとって負担の少ないケアを目指す。	介護主任	
2月	服薬ケア研修	薬に関する知識、重要性を学ぶ。	外部講師	
	リスク対策研修(事故対応)	事故を発見した際の適切な対応方法を学ぶ。	リスク委員会	
3月	全体会(認知症・接遇)	認知症の方への関わりなど、施設職員としての基本姿勢・スキルを学ぶ。	外部講師	

※日程に関して、外部講師の関係で変更する場合があります。

平成30年度 外部研修計画表

実施月	テーマ	内容	対象者
4月			
5月	腰痛予防介護技術の習得	利用者の力を引き出し、介護者の身体への負担も少ない移動・移乗の技術の習得。	全職員
6月	リスクマネジメント研修 I	施設の特徴を考え事故発生のメカニズムを習得し、有効な対策を考える知識と技術を学ぶ。	リスク委員
	移乗介助と体位変換	利用者・介助者ともに負担のない介助方法、身体の大きな利用者への介助方法 他	全職員
	認知症実践者研修	認知症ケアの基本的視点と理念。認知症の人の理解と対応。生活環境作り。他	勤務年数2年以上
7月	認知症の方の気持ちに寄り添う認知症ケア	BPSDについて。認知症の気持ちを考える。症状緩和のためのケア。他	全職員
	クレーム対応力強化研修	クレームに適切に対応するための、基本的スキルの習得。	リーダー・相談員
8月	アングーマネジメント研修	怒りの感情を理解し、怒りの感情のコントロールを通し、自分を省みる手法を学ぶ。	全職員
	業務改善手法研修	サービスの質の改善に取り組む手法。職場の分析。目標達成の工夫。信頼関係。他	ユニットリーダー
9月	姿勢と座位	車椅子の姿勢、ベッド上の姿勢など、褥瘡や拘縮予防のポジショニングとシーティング。	全職員
10月	シナプソロジーセミナー	シナプソロジー（脳活性化エクササイズ）の効果、活用方法。他	デイ職員・小規模職員
	介護の現場での看取り	ターミナルケアの現状と課題。緩和ケア。関わり方。他	全職員
	国際福祉機器展	最新の福祉用具に触れる。	全職員
11月	リフトリーダー養成研修	リフト等を有効に活用するために必要な知識及び技術の習得。	ユニットリーダー
	鹿行地区複数事業所研修	未定	全職員
12月	鹿行地区複数事業所研修	未定	全職員
1月	リーダーが人を育てる。やる気アップ術	リーダーの為の職員の育て方。職員のモチベーションアップ術。他	ユニットリーダー
	集団レク・エクササイズの質を変えよう	集団レク・リハの目的と効果。自主性・自発性を引き出すスキル。他	デイ職員・小規模職員
	鹿行地区複数事業所研修	未定	全職員
2月			
3月	ユニットケアフォーラム	ユニットケアにおける、排泄、食事、24Hシート、福祉用具の活用。他	全職員
※日程に関しては、29年度実績で予定を作成していますので、日程変更する場合があります。			
※その他、必要と判断した研修に関して随時参加する。			

平成30年度デイサービス事業計画

1. 事業の概要

大方の事業内容は前年度事業計画を継続して行う。

鹿嶋市の通所系事業所は人口に対して多い状況であり、ある意味利用者が事業所を選ぶ時代になってきていると感じる。事業所が利用者から選ばれ、事業所が活性化する為には、魅力や楽しみのある場所であり続ける事と、管理職の計画的な戦略的アプローチが必要である。戦略的アプローチとしては、新規利用者の開拓、既存利用者のフォローアップなど、利用者数の維持・増加していかなければならない。その為、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所ほか関係機関との情報共有・連携を図り、さらなる信頼関係の構築に努めていく。

また、利用者にとって居心地の良い「楽しみ」のある場所である為、デイサービスセンターの特色を出したレクリエーションの充実を図っていく。利用者に対しては生活や心身の状況を深く理解し、ニーズの発掘、個々に応じたサービスに努める。

2. 事業内容

(1) 「楽しみ」のある拠点

デイサービスセンターの特徴を活かし、居心地の良い「楽しみ」のある場所にする為、以下の内容を前年度から引継ぎ、さらに深められるよう展開していく。また趣味活動や行事を通じて、利用者同士のコミュニケーションの場、多くの接点を持てる事を目指し、活気あるコミュニティーにしていきたい。

- 1) 集団体操、レクリエーション、創作活動などを中心とした活動。また利用者の趣味や知識を活用した意欲増進を促すような働きかけ。
- 2) 四季に触れる・感じることを目的とした外出行事。
- 3) 食べる楽しみ、意欲を持つ外食や調理レク。
- 4) 喫茶、駄菓子販売へ参加し、入居者やユニットの職員との交流を図る。
- 5) 地域ボランティアを導入したレクリエーションの充実。

(2) 職員として資質の向上

在宅高齢者の“拠点”となる為には、職員の資質の向上は不可欠である。職員各々が、施設内外の研修へ参加し、知識と技術を深めることで、デイサービスセンターの職員としてのプロ意識を持てるよう働きかける。

また、在宅とデイサービスと生活の場が異なる為、在宅での様子等タイムリーに情報収集が行えるようコミュニケーション能力も養っていきたい。

平成30年度障がい福祉サービス事業計画

1. 事業の概要

空床を利用しての障がい者受け入れのため、サービス希望者はほぼ固定されてきている。今後も障がい者施策に準じ、地域の福祉施設として成長するためにも、障がい者の人権擁護と、安心して地域で暮らせることについて関わりを持ち微力ながら地域福祉文化の基盤づくりに貢献していきたい。

2. 利用対象者

18歳以上の身体障がい者

3. 運営方針

- ①利用者の自立の促進、生活の質の向上等を図るため、その障害の状況に応じた生活訓練、創作的活動及び機能訓練等を通じ社会生活へ適応ができるよう支援する。
- ②地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービス提供に努める。

4. 事業内容等

特別養護老人ホーム大野の郷「短期入所」及び「デイサービス」事業に準ずる。

平成30年度小規模多機能型居宅介護事業所和の家事業計画

1. 事業の概要

登録者数の伸び悩み、送迎業務の負担、通所サービス内容など、これまで試行錯誤を重ねながら事業所を運営してきた。今年度開所から5年目を迎える節目の年であり、新人から中堅へと成長できるよう基盤強化の1年にしたい。

小規模多機能型事業所として、何ができるかを考え、家族、地域の方々の理解と協力を得ながら、利用者の方が地域で暮らす支援体制を深めていきたい。その為には、小規模多機能型事業所を理解していただき、協力していただく為の広報活動を計画的に実施したい。

また、利用者が自宅で安全に暮らせて、通所された際には楽しく活動できるよう、利用者個々に合わせたニーズの発掘とマネジメント、通所事業内容の質の向上を目指す。その為には職員全員が能力及び意識の向上を図っていく。

2. 事業に向けた取り組み

(1) サービスの特徴を活かして

小規模多機能事業所の特徴を活かし、訪問・宿泊・通所サービスを利用者個々のニーズ・状況に合わせて柔軟に計画し、介護サービスを利用しながら自宅での生活を継続できるようにする。ケアマネ、介護職員が連携を深め、家族・地域の協力をいただきながら、“地域で、その人らしく”暮らせるよう支援する。

通所サービスでは、利用者に「楽しみや季節を感じ味わう」を提供できるよう外出、外食、季節行事など積極的に取り入れる。また、顔馴染みの仲間や職員と一緒に楽しめる時間を大切に、笑顔の絶えない日々を過ごせるようプログラムを作成し、充実した生活を心がける事を前年度から継続し、さらに内容を深めていく。

(2) 職員のスキルアップ

前年度に引き続き、「報告・連絡・相談」を密にし、突発的なサービス変更にも迅速且つ的確に対応できるよう、職員間の連携を深めていく。また、アクティビティーの充実、利用者の心に寄り添う暖かい介護を実践する為、プロとしての意識の向上を目指す。その為には、研修への積極的な参加、イベント・活動の計画・実施のチャレンジを促し、自主性を養っていく。

(3) 地域貢献と災害対策

前年度同様、運営推進会議の開催や地域支援センター及び地区社協との連携を図り、

情報収集を行っていく。

災害時対策については、継続して災害時避難場所の確保、利用者の安全確保を万全とする。